

日 時：平成26年5月26日（月） 18時30分～20時15分

場 所：日沼地区コミュニティ施設

対象町会：日沼、蒲田、新山

参加人数：18名

内 容
<p>(市民からの要望・質問)</p> <p>○樹木の処理について</p> <p>自宅近くの農村公園に大きく成長したケヤキの木があるが、その木の落ち葉で困っている。何とかしてもらえないか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・農村公園の管理は、日沼町会に任せている。町会に相談いただきたい。町会で対応が可能となれば、伐採や枝払いをしても良い。 <p>(市民からの要望・質問・回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・町会の役員で協議する。
<p>(市民からの要望・質問)</p> <p>○ソーラー発電の設置について</p> <p>国・県の補助金を使い、コミュニティ会館にソーラー発電を設置できないか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・以前も同様の要望を伺い、検討したが市単独では難しい。ソーラー発電を設置しても蓄電池も整備しなければならないことや、また日沼町会だけに設置ということもできない。市全体のことを考え、経費がどのくらいかかるかなどの問題もある。・国の事業に乗せることができれば、その際は事業化を検討したい。
<p>(市民からの要望・質問)</p> <p>○除雪に係るトラックの貸出しについて</p> <p>以前広報で、除雪に際しトラックの貸出しを検討しているという記事を見た。その後の対応はどのようになったのか。希望をすれば貸出しをしてもらえるのか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・広報ではなく、社協だよりに載っていたと思う。社協で軽トラックのダンプを購入し、貸出しを行っていく予定である。・市の対応としては、6月の補正予算案の中で、一人暮らしの高齢者等が自力で排雪できない方に対し、排雪1回につき5千円で10回分を支給する予算をみている。モデル事業として10町会で行い、需要がどのくらい有るのかを調査し、需要が多い場合には全町会へ広げていきたいと考えている。社協とも協議をしているところである。

(市民からの要望・質問)

○コミュニティ補助金について

電気料等に活用できるコミュニティ補助金事業が有ることで、非常に助かっている。町会が存続しているうちは、補助金を交付してもらえるか。

(市の回答)

・地域でできることは地域で、できないことを行政で手助けしていくという考え方である。
・コミュニティ補助金については、それぞれの地域で、地域の人が暮らしやすくなっていくために使われていることは聞いている。今後も是非続けていきたいが、地域独自に何を実施するのかを計画してもらい、その計画に対して補助金を交付していく。その結果、剰余分を電気料等に使用することは差し支えないが、ただ貰えるとなってしまうことは困る。
・平成21年度から始めた事業であり、非常に好評である。市全体の町会の中には、世帯割、均等割について限度額があり不公平ではないかとの声があり、改めるよう要望がある。今後、補助制度の中身について見直しを行いながら、事業自体は継続していく予定である。

(市民からの要望・質問)

○集会施設の運営費について

当町会は、約50戸で集会施設の運営をしている。町会費に対しての運営費の割合が高く困っている。市で運営費の補助をしてもらえないか。小さな町会は負担が大きく不公平ではないか。

(市の回答)

・町会費に対する集会施設の運営費は、町会が小さいほど負担が大きくなるということはある。旧平賀町では、建設時には行政で補助をするが、運営は各町会でということで行ってきている。小さな町会に、運営費を補助することは難しい。コミュニティ補助金を活用してもらいたい。
・コミュニティ助成事業は、地域のまとまりのためにコミュニティ事業を実施してもらいたいとのことで補助しているが、その他にも集会施設の維持管理に当てても良いというものである。平賀地域での町会費は約9千円～1万2千円位である。昔のように冠婚葬祭が会館で行われなくなり、会館としての収入が無くなり運営が難しくなったことから、コミュニティ助成事業が始まった。大きい町会ほど施設運営に係る経費も増大する。集会施設は、地域の人が利用し受益を得ている訳で、運営については地域で考えていただきたい。

(市民からの要望・質問)

○人口減少について

人口減少に伴う市独自のビジョン、対策はあるか。

(市の回答)

・少子化のなかにあって若いカップルを多くしていけないといけない。そこから子どもができ、少子化対策に繋がっていく。今、商工会が中心となり、電車 de 合!!CON というこ

とも行っている。

・子育て支援としては、産まれてくる子に対する支援として、乳幼児の医療費支援を拡充させる計画である。

また、平川市の夫婦2人で産む子の人数は1.2人ほどであり、県平均よりも低い状況である。これまで第3子から保育料が無料であったものを、今年の4月1日からは第2子から無料としている。これに伴う経費が7千4百万円ほどかかり、対象者は430名ほどである。2人目を産んでほしい、また夫婦が子を産みたいという気持ちになってもらえればとの思いから拡充した。

・併せて子育て支援課を新設し、職員7人態勢で動いている。子育ての相談は、子育て支援課に行けば、ほとんど対応できるよう体制整備をしている。

・平賀、尾上地域では、新たな住宅が建ってきている。保育料を軽減することで、市外の人が平川市に住みたいとなるよう望んでいる。

・青森県は高齢者の平均寿命が低く、全国でも最下位に近い。平川市も低い方である。健康で長生きできるように、保健師を中心として健康寿命を上昇させるため、食生活の改善や生活習慣の改善を促すことを始めている。

・住宅補助金について、現在申請件数が51世帯あり、232人が対象である。このうち、市外の人が56人おり、平川市に転入予定である。内訳は、鶴田町1件、弘前市8件、大鰐町2件、田舎館村2件、宮城県1件となっている。

・子育て支援課では、担当者が何が出来るのかを検討しているところである。

・来年度から新しい保育の関心の制度が始まる。アンケートを取った結果、病後児保育、病児保育に関する要望が多くあった。この保育は、採算性は良くないが今年度の実施に向け検討しているところである。

(市民からの要望・質問)

○小学校合併記念事業に対する助成について

日沼小学校と猿賀小学校が統合し、まもなく40年を迎える。今、統合40周年事業に向け、地域の1,000世帯が一丸となり動いている。市からこの事業に対し若干でも補助、助成していただきたい。

(市の回答)

・40周年事業で、どのような事業に対しどのような支援を要望しているのか。全ての学校で今後、節目節目の年を迎えるが、その全てに助成していくことは難しい。行政の手助けとして何が必要なのかを明確にした中で、助成金等の要望があれば考える余地はあると思う。この場で、助成金を出すとはならない。

(市民からの要望・質問)

○財政調整基金積立金について

昨年、財政調整基金へ新たに1億5千万円ほど積み立てしたと思うが、もっと有意義に使えないものか。市で毎年、各町会から要望を取っているが、その要望に対する回答の中には長期総合計画の中で検討していくというものがある。町会としては、無碍にされてい

る感がある。約70町会あるが、計画的に進めていけば事業実施できるのではないか。基金積立の内、1～2千万円は、町会要望に回しても良いと考える。地域の要望を満たしてほしい。

(市の回答)

・地域の要望に対し応えることは重要である。要望のあった箇所については、現場を確認し、危険で緊急性があるところについては6月の補正予算案に肉付け予算として計上し、議会に提案する予定である。

・防犯灯のLED化など、市全体としての整備となるものについては、子どもたちの安全、安心のためにも進めていきたい事業である。

・事業をやるとなると国からの補助があっても、市からの持ち出しは出てくる訳であり、昨年のような災害等にも備え基金はある程度、積んでおかなければならない。

・また以前、要望やお話をいただいた件もある。日沼一本柳の道路について、測量した後どのようなになっているのかという話をいただいている。これは平成26年度で完成することを予定している。

・公園の遊具の設置については、使用状況を見てからということとしているが、遊具の管理のことが出てくる。ブランコ、滑り台は設置されているので、これで我慢できないかと市では考えている。

・平川へ繋がる排水溝について、昨年、逆流することから堰き止めた場所がある。現場を確認したが、非常に難しい問題である。市単独でポンプの設置はできないため、今、県の方に対応を要望している。

・その他では、民生委員の人の横のつながりが欲しいとの要望もあったが、毎月の定例会で委員間で連携を取っていると聞いている。もしそれでも連携がうまくいっていないようであれば、対応を考えていく。

・地域の要望に対し、年次を追いながら市全体の中での優先度を付け、重点的にやっていくつもりである。

・基金については、決算において剰余金が出た際は、その2分の1を下回らない範囲内で積み立てなければならないとなっている。

・当市は合併し、9年目になる。合併後10年間は、地方交付税を多く貰っているが、11年目以後少しずつ減り、15年目で今より12～13億円ほど少なくなる。今だけのことを考えると積立てなくても良いように感じると思うが、このことにも備える必要がある。将来を見据え職員も減らしている。また指定管理等も含め、行政改革を行っているところである。基金を持っておかないと、将来の行政サービスに支障が出る恐れがある。支障を出すわけにはいかないの、地方交付税が減ることに備えた財政措置を講じているところである。ご理解をお願いしたい。

(市民からの要望・質問)

○AEDの配備について

病人が出た時のために、各集落に1つずつでも良いのでAEDが欲しい。市で補助金を

出すことや、無償提供などできないか。

(市の回答)

- ・ A E D の設置については、どのような対応ができるのか検討してみる。地域の人を守るとなれば、あっても良いと思う。
- ・ A E D の取扱いについて、講習会等により町会の皆さんに覚えてもらう必要がある。設置することになれば、講習会の受講についてもご協力をお願いします。
- ・ 集会施設で事業などをやる際に、一般の人が消防署の講習を受けることで使い方は覚えることができる。消耗品の交換等も出てくる。ただし集会施設は普段、鍵をかけており、いざ使用しようとするときに使えないことも考えられる。

(市民からの要望・質問)

○自主防災組織が立ち上がっている。自主防災組織に持たせるといった案もあるのではないか。

(市の回答)

- ・モデル的にやってみても良いと思う。

(市民からの要望・質問)

○除雪の時間について

除雪車が23時30分頃に回ってくる。その後、朝方までかかると10センチ位は積雪がある。除雪開始時間は何時から回っているか。通学路のこともあることから、業者が除雪する時間帯をずらせないか。

(市の回答)

- ・ 昨年、49工区であった。昨年だけでも5工区増やしている。一昨年、雪が多く、苦情が多くあったことから工区を増やしている。早い時間帯に回っているところは、朝に雪が多いという苦情があるのは事実であるが、ご理解をいただきたい。工区が今の倍あれば、時間帯を遅く出勤することも可能だと思うが、業者数に限りがあること、また予算も倍かかることとなる。毎年、除雪について困っているのであれば土木課へ相談いただきたい。相談いただいた場所については、土木課で必ず現場確認をし、場合によっては業者にも指導し、対応させる。
- ・ ブルドーザーの寄せた雪で困っている人は多い。新聞にも以前出ていたが、ブルドーザーの走った後に、ロータリー車が入れば良いとあったが、除雪費が2倍かかってくる。重い雪を片付けられない一人暮らしの人が一番困っていると思う。そのような人たちを地域で手助けしてもらえないかと考えている。個人の機械で片付けてもらい、それにかかる燃料代を市で支払うようなことはできると思う。コミュニティ補助金での対応もできるものと考えている。

(市民からの要望・質問)

○河川の整備について

毎年のように、水田が水害にあっているが、原因の一つに雨が多い時に、川の流れが緩くなってきていることがあると考えている。中州があることで、川が浅くなっており川の役目を果たしていない。国の管轄であると思うが、何年かに一回でも中州を直すなどの整備が必要と考える。市からも、県や土木事務所に要望をしていただきたい。

(市の回答)

・国土交通省、東北整備事務所、県の河川砂防課にも要望をしている。災害後も要望をしているが国の予算が付かないとのことである。今後も要望を続けていく。中州の工事をすると、内水面漁協との協議も出てくる。護岸の木を切ることさえ、駄目だと言われることもある。このような団体とも話をしたうえで進めていかないといけない。

・昨年、平川と浅瀬石川が合流するところで岩木川が溢れた。ここは、大雨となるといつも溢れている場所である。水の出どころである五所川原市より下流域の川を広げなければならず、県でも国に対し要望をしているが未だ通っていない。

・昨年は、昭和57年の水害に次ぐ大雨であった。またいつ、昨年のような大雨になるかわからない中で、一つ一つ解決していかないといけない。今出た話については、引き続き国、県に対し要望していく。

(市民からの要望・質問)

○除雪の出動基準について

積雪が少なく、除雪の必要がない時も除雪車が来るときがあるが、出動態勢はどのようになっているのか。積雪が2～3cmであっても出動するものか、基準を知らせてほしい。

(市の回答)

・出動基準については午後10時位の段階で、朝までに10cm以上の降雪があると見込まれる場合に出動している。人が判断するものであり、それぞれの地区の業者に任せている。各地区によって出動する業者、出動しない業者がある。市から一斉に出動するようにと命令はできないところである。出動しないことで苦情が来ることあり、降雪を予測し、出動判断をすることは非常に難しいところである。

(市民からの要望・質問)

○市でパトロールには回っていないのか。

(市の回答)

・パトロールには出ている。しかし、市内全域をパトロールすることは不可能である。

(市民からの要望・質問)

○信用のできる委託業者を選ばないといけないのではないか。私も除雪車のオペをしている。除雪車をリースしているが、雪が降らない年はリース料さえ払えない。天気予報で、

雪が降りそうだとすれば出動している状況である。除雪の出動は、委託業者の判断である。

(市の回答)

・今、出た話については土木課にも伝えておく。

(市民からの要望・質問)

○苗生松の除雪について

平賀地域の苗生松は、家の前の除雪の状況が非常に良い。どのような仕組みでやっているのか。マニュアル等があれば情報提供して欲しい。

(市の回答)

・苗生松、館田地区については、非常に素晴らしい除雪をしている。苗生松、館田地区には融雪溝があり、雪を捨てれば直ぐに流れるほどの豊富な水量が有る。そういった意味で恵まれた地域である。

(市民からの要望・質問)

○融雪溝について

旧日沼小学区の子どもたちは、八幡崎を通って通学している。八幡崎は冬期間、道幅が狭くなり非常に危険である。融雪溝を設け、地域で除雪作業をできないものかと考えている。水が無いならば水を引っ張り込む努力をし、設置に向け頑張ってもらいたい。

(市の回答)

・八幡崎地区の歩道については一部で非常に狭くなっている箇所があり、ロータリーが入れずハンドガイドで除雪をしている。しかし、ハンドガイドすら入れない所もある。そのような場所は、通学時に危険であることからパワーショベルで排雪をしている。

・八幡崎地区に融雪溝を設置するとなっても、水量がなく難しいところである。水さえ有れば、優先的にでも融雪溝を整備したい地区である。

・ロータリー車が入れるように歩道の拡幅を具に要望しているが、実現には至っていない。

・地域の人に協力をしてもらえれば、融雪溝は非常に良い方策である。しかし、水があるかの問題、また融雪溝の水が流れていく先のこともある。水を得るためにポンプアップし、その経費をそこの地域で支払っているところもある。融雪溝を設置するだけでなく、さまざまな面から検討をしないといけない。

・八幡崎のところは、通学路の途中で歩道が左側から、右側に代わる箇所もあり変則的である。ロータリー車が入れるくらいまで歩道を広げる方法が良いと考えているが、地権者の同意が必要であり地元との交渉が難しい。

・現在、街灯が歩道の反対側にある場所があり、街灯を歩道側に設置できないかとの話がある。LED化を進める際に、併せて検討していく。

(市民からの要望・質問)

○通学バスについて

冬期間だけでも日沼、蒲田、新山地区に通学バスを出せないか。

(市の回答)

- ・安全確保の考え方のひとつであると思う。学区の統廃合により、バスを出している所はあるが、通学路に不安があるとのことから、通学バスを出すということは考えにくい。
- ・学校に通学路の安全確認を依頼している。歩道に雪が溜まっていて危険だというところは、PTA、土木課の協力を得て、市長、副市長、財政部局とも協議し、業者委託し排雪をしている。
- ・この地区から猿賀小学校までの距離は3 km ほどある。国で通学距離の基準を示しており、小学校は4 km 以内、うち低学年は2 km としており、これを標準としている。市内で3 km を超えるところは、この地区の他にもある。
- ・地域、PTA の協力も得ながら冬期間の安全確保をしていくというのが、現在の市の現状である。

(市民からの要望・質問)

○条例等でスクールバスを出す基準はあるか。

(市の回答)

・スクールバスを出す基準は条例等で定めるものではない。今年の4月から葛川小学校が金田小学校に統合されたように、学区を決めることは条例で定めている。スクールバスを出すことは、運用とそれに伴う予算化である。通学距離としての国の基準があり、小学校で4 km 未満、中学校で6 km 未満としている。時間にして30分～1時間とする基準はあるが、最終的には自治体の判断である。

(市民からの要望・質問)

○通学路の変更について

今の通学路を拡幅して安全を確保するという事は、地権者の了解が得られにくい状況である。違う経路を取れないものか。例えば、村中を通るのではなく、裏の道路を利用する等できないものか。

(市民からの要望・質問・回答)

- ・通学路の排雪については、町会、学校、PTA で年に2、3回やっていた。2、3年前から学校の安全委員会の方で、通学路の除雪はやらないとしてしまった。自分たちで危険であるかを見ては居るが、最終的には行政の問題としている。できれば、今年からでも以前のように戻したいとの個人的な思いはある。
- ・裏に通学路を指定したこともあるが、防犯上の問題が出てくる。いろいろな経緯が有り、現在に至っている。
- ・拡幅するには南側が一番良いのだが、町会の事情もある。また、昔の家庭排水が壊れており、それを直さないといけない。南側に歩道とセットで県に要望をしているはずである。
- ・学校、家庭、地域が協力をしてやらないといけない問題である。